

在宅パパ 今こそ子育てを

箕面の「主夫」 ネットで呼びかけ

新型 コロナ

「子育てに関心のないパパの皆さん、これはラストチャンスです」。箕面市の「主夫」、和田憲明さん(46)がネットで警鐘を鳴らし続けている。新型コロナウイルスの影響で家にいるのに、育児にかかわらない男性が多いと危惧し、「ピンチは家族で乗り切ろう」と訴えている。

京都出身の和田さんは元テレビ局の報道カメラマン。2002年に看護師の妻と結婚し、翌年に長女が誕生。妻の育休が明けた04年から「主夫」となった。

NPO法人ファザリング・ジャパン(東京)の「子育てパパ力検定」で「スーパーパパ」と認定されたのを機に10年、関西支部を設立した。その後には保育園長も務めた。趣味のマジックや子育て講座などの講師として飛び

回る日々が、新型コロナウイルスで一変した。3月は17件のうち15件の仕事がキャンセルとなり、今月はゼロだ。在宅時間が増えて気にな

和田さんは動画で「お互いに思ったことは言おう」と念を押す。妻の夫に対する不満も理解できる一方、夫が家で何をしていたのか分からない状況も、主夫を始めた頃の自分を思い出せばよく分かる。

「言わないで冷え切ったら夫婦は終わり。意見や恨みを言い合いながら、2人

ったのが、SNS上の母親たちの叫びだ。「休校で子どもがずっといる大変さを夫は分かってくれない」「コロナ離婚かも」……。

全国で休校が始まった3月、「イクメンブームからもう10年なのに」の題でサイトに寄稿した。「ニュー

スは「働く母を直撃」「ママが大変」といった表現でいっぱいだ。父と母が力を合わせて乗り切れば家族は強くなる、と訴えた。在宅勤務の男性が増えた今月は危機感が増した。多

く父親がこれほど長い時間を家で過ごすのは初めてだ。母親たちの恨みの声もさらに増えていた。

5日には、父親を子育てに巻き込む「10の方法」を動画配信した。

父親が子育てをすれば両親の多様な価値観に触れて子どもが育ち、父親自身も成長すること。「上手な夫婦げんか」として、時間に任せれば自然に歩み寄れる。子の前でけんかをしたら、仲直りまで見せてあげる、などと教示した。

「夫と妻 思ったことは言おう」

でコロナを乗り切るといふ合意を作ることが大事なんです」と和田さん。

11日は「今を逃すともう『父親』にはなれない」との題で投稿。「チャンスのことごとく逃してきたパパたち。この緊急事態に子育てに関わらない。それでも言い訳します?」と強い言葉で呼びかけた。

12日は「家にいる時間が長い今こそチャンス」と、親子で楽しむ絵本講座をネット上で開いた。ピンチを乗り越えて強くなる家族が増えることを祈って。

詳しくは「マジックパパ」のホームページ (<http://papa-magic.com>) へ。 (柳谷政人)



和田憲明さんが5日に配信した動画「パパを子育てに巻き込む10の方法」